

加している。このシステムは2011年にはクラウド型システムに移行し、双方向型連携（WEB紹介状など）を、2012年にはMRIなどのWEB予約システムや在宅医療での運用を開始した。さらに2017年には長崎大学との間で相互に診療情報の開示を開始し、2020年には時間外運用を開始するに至った。小児科の利用実績はまだ少ないものの、富士通とNECの双方の電子カルテシステムに対応しており、今後ニーズは拡大するものと予測される。

題であり、今後は初期研修医や専攻医の育成、離島医療圏組合との連携で乗り切ることができないか検討中である。

〈本論文は第76回国立病院総合医学会シンポジウム「小児医療の地域連携－選ばれるためには－」において、「長崎医療センター小児科における地域との連携」として発表した内容に加筆したものである。〉

利益相反自己申告：申告すべきものなし

課題と今後

当院小児科の連携の基本は「顔の見える関係を大切にする」ことであったが、COVID-19の拡大により関係性が作りにくくなっていると感じる。一方、ICTを用いた連携が急速に広がったのはCOVID-19の副産物ともいえる。これは今後も重要なツールとなるため、引き続きさまざまなシーンでの連携に活用していきたい。また、働き方改革に対応しつつ、現在の診療レベルを維持するための人員の確保も問

【文献】

- 1) 小野智憲. 長崎県のでんかん地域診療連携体制整備事業（2021年度）；厚生労働省補助金でんかん地域診療連携体制整備事業2021年度でんかん全国支援センター報告書（Accessed Mar. 3. 2023, at https://www.ncnp.go.jp/epilepsy_center/pdf/report_r3.pdf）
- 2) あじさいネット（Accessed Mar. 3. 2023, at <http://www.ajisai-net.org/ajisai/index.htm>）

今月の 用語

隣に伝えたい 新たな言葉と概念

【BFHI】

〔英〕 Baby friendly hospital initiative 〔和〕 赤ちゃんにやさしい病院運動 〔略〕 BFHI

母乳育児推進運動の事であるが、その中心となる施設の組織も意味している。

1989年、WHOとUNICEFは母乳育児の保護、促進と支援のため共同声明を発表し、「Ten steps to successful breastfeeding」を提唱した。そして1991年よりこの「Ten steps」を遵守する産科施設をBaby friendly hospital (BFH) に認定するようになった。その後、WHOは「Ten steps」の検証作業を行い、2018年には改定された。母乳育児の利点は、栄養や免疫に限られるものではなく、親子の「こころ」と「からだ」の健康全体に重要であり、出生直後からの肌と肌の触れ合いにより親子の愛着が形成され、「基本的信頼関係」が形成されることである。BFHIは母乳育児支援に限らず、すべての親子を対象とし、妊娠・出産・育児の過程を通じた「こころ」と「からだ」の健康を支援し、地域に率先してこの運動を広めていく役割を担っている。

その他必要事項（本用語とつながりの深い専門分野、関連学会など）：

WHO Nutrition and Food Safety

<https://www.who.int/teams/nutrition-and-food-safety/food-and-nutrition-actions-in-health-systems/ten-steps-to-successful-breastfeeding>

日本母乳の会HP <https://www.bonyu.or.jp/index.asp>

（国立病院機構長崎医療センター 小児科 青木 幹弘）

本誌16pに記載